

地すべり災害リスクの理解と軽減を地球規模で推進するための 京都 2020 コミットメントの準備

地すべり災害リスクの理解と軽減を地球規模で推進することを目的とし、2015年3月16日に仙台市で開催された国連防災世界会議(WCDRR)のワーキング・セッション“潜在している災害リスク要因”においてICLが提案したUNISDR(国連国際防災戦略事務局)–ICL(国際斜面災害研究機構)仙台パートナーシップ2015-2025が、採択され、同日、仙台市において、国連機関・国際機関・日本/イタリア政府機関等によって署名された(Sassa 2015, Wahlström 2015)。仙台パートナーシップ採択の2015年以降、2017年3月に至る進展は、Landslides Vol.14(3)で報告されている(Sassa 2017a)。このパートナーシップの主な成果には、スロベニアのリュブリャナ(Ljubljana)で2017年5月29日～6月2日に開催した第4回世界地すべりフォーラム(Mikos et al. 2017)とこのフォーラムでのハイレベル・パネルディスカッション「ISDR-ICL 仙台パートナーシップ2015-2025のための政府間ネットワークと国際斜面災害研究計画(IPL)の強化」の開催が含まれる。

地すべり軽減に向けての2017年リュブリャナ宣言の草案と、地すべり災害リスクの理解と軽減の国際的推進に関する京都2020コミットメントの構想が、2017年5月30日WLF4のハイレベル・パネルディスカッションで議論され、まとめられた(Sassa 2017b)。この宣言では、2020年に第5回世界地すべりフォーラム(WLF5)を京都で開催し、そこで京都2020コミットメントをまとめることが謳われている。2017年5月31日のハイレベル・パネルディスカッションへのフォローアップセッションである円卓会議では、2017年のリュブリャナ宣言、WLF5計画(Sassa 2017d)と地すべり災害リスクの理解と軽減を地球規模で推進する京都コミットメントの構想が採択された。(Sassa 2017b)。

京都2020コミットメント構想の骨子は、国際的な地すべりリスク軽減のための長期的かつ広範で強力な枠組みを構築することである(Sassa 2017b)。京都2020コミットメントへの参加を呼びかけを行うことも併せて承認された(Sassa 2017c)。

2017 ICL – IPL (国際斜面災害研究計画)会議が2017年11月29日～12月1日にパリのユネスコ本部で開催された。この会議では、京都2020コミットメントの構想に基づく京都2020コミットメントのゼロ素案が提示され、議論された。この議論の後、ISDR-ICL 仙台パートナーシップ関係者により、京都2020コミットメントのゼロ素案はさらに練り上げられた。

ICLとIPLは、仙台パートナーシップの主要パートナーにゼロ素案を配布し、京都2020コミットメントの草案を完成に向けてのコメントと投稿を募る。この募集は、2018年12月2日～4日に京都で開催する次回のICL-IPL会議まで継続する予定である。

この草案は、国連、国内外の政府機関、非政府機関、民間組織、そしてISDR-ICL 仙台パートナーシップ2015-2025、災害リスク軽減に関する仙台フレームワーク2015-2030、および2030アジェンダ・持続可能な発展目標などへの貢献を考えているそのほかの団体にも提示される。

そのうえで、2019年11月にパリのユネスコ本部で開催予定のICL-IPL会議において京都2020コミットメント案を承認し、参加機関にコミットメントに署名するよう呼びかけを行う。そして最終的に2020年11月に京都で開催される第5回世界地すべりフォーラムにおいて、全参加機関の合意のもとで京都2020コミットメントがスタートする予定である。

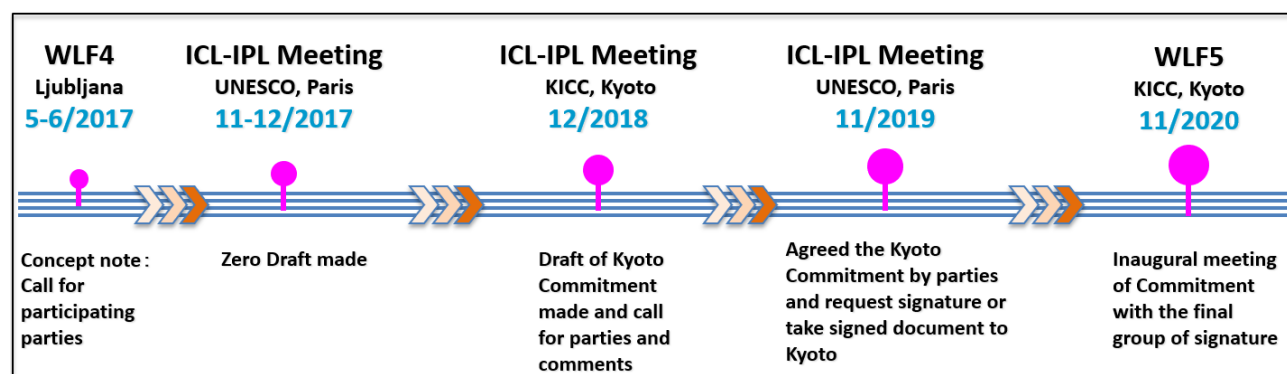


図1 京都2020コミットメント構築にいたるプロセス

(WLF: World Landslide Forum 世界地すべりフォーラム、ICL: International Consortium on Landslides 国際斜面災害研究機構、IPL: International Programme on Landslides 国際斜面災害研究計画、KICC: Kyoto International Conference Center 国立京都国際会館)

京都2020コミットメントのゼロ素案(2018年3月5日時点)は別紙の通りである。